

ロシア人にとって

「正しい」とは何か——中世から考える

日ロ交流の歴史のはじまりは、大黒屋光太夫、ラクスマン、高田屋嘉兵衛、ゴロヴニン、レザノフらの名前とともに記憶されるが、ソビエト崩壊から28年が経し、ロシアがアニメや日本食ブームに湧く今ほど、日ロ両国民の心理的距離が縮まつたことはないようと思われる。

しかしながら、残念なことに、日ロ両国民のあいだにはまだ、十分な相互理解があるとは言えない。とくにロシア側が禅やサムライをはじめとする前近代の日本文化に関心をもってきたことに比較すると、日本側がロシアの前近代の文化、すなわち、ピョートル改革以前の中世ロシア文化へ抱いた関心は驚くほど乏しいと言わざるを得ない。このプレゼンポジウムの目的は、近現代ロシアの基層を作ってきた中世ロシアの文化に光を当て、ロシア人が何をもって「正しい」と感じ考えて、行動してきたかを明らかにすることである。

※このプレシンポジウムは、文科省科学研究費基盤研究（B）「中近世ヨーロッパにおける「正しい認識力」観念の変遷」の支援を得て行われる。

ゲスト アレクサンドル・ボブロフ
(ロシア科学アカデミー・ロシア文学研究所)

コメンテーター 皆川 卓 (山梨大学)

モデレーター 三浦 清美 (早稲田大学)

通訳 吉岡 ゆき、今田(北川) 和美

予約不要 入場無料

日時：2019年10月25日（金） 18:00-20:30

場所：早稲田大学国際会議場 井深大記念ホール
(早稲田大学中央図書館1F)

ロシア人にとって「正しい」とは何か—中世から考える

日時：2019年10月25日（金） 18:00-20:30

場所：早稲田大学国際会議場 井深大記念ホール
(早稲田大学中央図書館 1F)

住所：東京都新宿区西早稲田 1-20-14

早稲田大学国際会議場への最寄りのバス停・駅

- ・JR 山手線 / 西武新宿線 高田馬場駅から徒歩 20 分
- ・地下鉄東西線 早稲田駅から徒歩 10 分
- ・都営バス（学バス）高田馬場駅→西早稲田から徒歩 3 分
- ・東京さくらトラム（都電荒川線）早稲田停留場から徒歩 5 分

プログラム

プレシンポ趣旨、ミニレクチャー（20分）

三浦 清美

正しい「力」の行使と「力」からの逃避—『ラドネジのセルギイ伝』からの一挿話

講演（80分）

アレクサンドル・ボブロフ

中世ロシア書物文化の黄金時代—エピファン・プレムードルイからヴァッシャン・パトリケーエフまで

休憩（10分）

コメントと応答（20分）

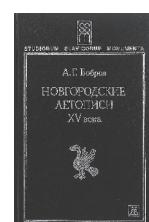
皆川 卓

神聖ローマ帝国史からの視点

フロアとの対話（20分）



ロシア科学アカデミーロシア文学研究所（プーシキン館）主任研究員。1960年、レニングラード生まれ。サンクトペテルブルグ大学文学部卒業後、ロシア国民図書館写本部勤務しながら、アポクリファ作品『アフロディティアン物語』の文献学的研究で准博士号取得。リハチョフ博士に認められ、プーシキン館勤務（現職）。リシツキイ修道院を中心とした中世ロシア共和政都市ノヴゴロドの年代記編纂活動の研究で博士学位取得。その後、15世紀後半の卓越した文筆家キリル・ベロゼルスキイ修道院のエフロシンの文筆活動に焦点を当て、モスクワ大公国勃興期の文筆活動の実態を解明した。方法論の着実さ、視野の広さ、思考の柔軟さにおいて他の追随を許さない。



アレクサンドル・ボブロフ

早稲田大学文学学術院教授。1965年、埼玉県生まれ。中世ロシア文学、中世ロシア史、民俗学専攻。『キエフ洞窟修道院聖者列伝』の詩学的考察から出発し、スラヴ民俗学を視野に入れながら、ロシア正教、モスクワ国家の成立史、スラヴ的異教文化とキリスト教正教の融合（シンクレティズム）のプロセスなどを研究している。目指しているのは、ロシア人の精神（魂）の変遷史の解明。著書に『ロシアの源流』講談社メヂコ叢書、2003年。



三浦 清美



皆川 卓

山梨大学大学院教育学域人間科学系教授。近世ヨーロッパ史、特に中央ヨーロッパの政治文化、法・哲学・文化と政治秩序の関係、イタリア帝国封を含む神聖ローマ帝国の国政と構造を研究している。研究代表者を務める文科省科学研究費基盤研究（B）「中近世ヨーロッパにおける「正しい認識力」観念の変遷」では、地域によって異なる、中近世ヨーロッパの「正しい」の観念の全体像を解明しようとしている。

問合せ先

e-mail: exe_conf@yaar.jpn.org (大会実行委員会)

tel: 03-5286-3740 (早稲田大学文学部露語露文コース室)